

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東住吉区

学 校 名 矢田西小学校

学校長名 成瀬 守一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小学校では、第6学年 37 名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科とも、平均正答率は大阪市、全国平均より下回っている。ただし、無答率については大阪市、全国平均と比較するとどちらも少なく、特に国語科については全国平均より1.7%上回っている。領域別にみると国語科は「言葉の特徴」が69.2%で全国平均を上回ったが大阪市平均はやや下回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」はそれぞれ、61.6%、45.5%、26.3%で大阪市、全国平均ともに下回っている。特に「読むこと」について大阪市平均より15%以上のひらきがある。算数科は「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」、すべての領域で大阪市、全国平均を下回っている。ただし「変化と関係」については71.1%と本校の中では正答率の高い領域で、大阪市、全国平均との差も5%以内になっている。

質問紙は、人権感覚、自己有用感の項目は、肯定的な回答が95%を超え、自己肯定感、主体的・対話的な学びの項目については、85%以上であった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕ここ数年は、平均無答解答率は、対全国差が小さくなってきている。粘り強く問題解決に取り組む姿勢が身についてきている。平均正答率の対全国比は、以前に比べて向上してきているおり、年度や領域によっては全国平均を上回っているものもある。課題は、「書くこと」「読むこと」であり、記述式の問題についての正答率が低い。児童質問紙からも苦手意識がうかがえる。

〔算数〕全国平均からは10P程度下回ったが、「図形」「データの活用（旧：数量関係）」の正答率が低く、それ以外の領域については全国平均との差異は前回調査と比べて大きく変化はしていない。課題は、国語科と同様「書くこと」である。記述式の問題の正答率が低い。児童質問紙の回答結果から学習への意欲や自信と、学習の成果に差異が見られる。

質問紙調査より

多くの質問事項で、肯定的なとらえをしている児童の割合が全国平均もしくは平均以上であった。「自分には、よいところがあると思いますか」(88.1%)、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(97.1%)、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(97.1%)、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(88.6%)、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」(91.5%)で、この5項目については肯定的な回答の割合が高かった。育てたい子ども像に近づきつつあり、子どもたちの学びへの意識も着実に高まってきているが、教科に関する調査と比較すると、学習の成果にはまだ十分に結びついていない。

今後の取組(アクションプラン)

- 1 すべての子に確かな学力を身につけるために授業改善を行う。授業をとおして学力向上を図る。
- 2 学力の基礎となる挑む力・やりきる力を育てる。
- 3 互いに学び合い高め合う集団を育てる。
- 4 学力状況の分析を行い、課題を明らかにしてチームで学力向上に取り組む。
- 5 家庭での学習習慣が確立できるようにする。

人格の形成が学校教育の目標である。学力向上に特化した教育にならないようバランス感覚を大切にして取り組みを進めていきたい。また、学力向上は、1年でできるものではない。6年間の長いスパンを意識して取り組みを進めたい。